

国語 第2学年 組み立てを考えて、はっぴょうしよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の3月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

二年生で経験した出来事を、聞く人が様子を思い浮かべられる順に紹介する。感想を何度も繰り返すのを避け、行動や出来事の前後をそろえて話す。単元の終わりに残すのは、二年生の思い出の発表メモ。出来事の順、特に伝えたい行動、そのときの思い、聞き手からの質問を残す。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)イ	イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。
〔第1学年及び第2学年〕A話すこと・聞くこと(1)イ	イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。

単元の目標

姿勢や口形、発音に注意し、相手に聞こえるように話せる。自分が行動したことや経験したことを基に、相手に伝わる順序を考えて話せる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①姿勢や口形、発音に注意し、相手に聞こえるように話している。（〔知識及び技能〕(1)イ）	①「話すこと・聞くこと」において、自分が行動したことや経験したことを基に、相手に伝わる順序を考えて話している。（A(1)イ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全8時間（話・聞⑧）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○紹介する相手を確認、二年生で経験したことを出す。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○特に伝えたい出来事を選び、自分の行動をメモする。	知①（語句や内容の整理）
	3	○話す事柄を順に並べ、最も伝えたいことを確かめる。	学習状況を見て支援する。
	4 （本 時）	○メモを使って話し、聞き手が出来事を追える順かを確かめる。	思①（発言・学習記録）
	5	○聞き手の質問を受けて説明を加え、話す順を直す。	学習状況を見て支援する。
	6	○聞き取れる声や速さを試し、発表を練習する。	学習状況を見て支援する。
	7	○思い出を発表し合い、話の順序や様子が伝わった所を返す。	学習状況を見て支援する。
第3次	8	○メモの変更と伝わり方の関係を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：自分が行動したことや経験したことを基に、相手に伝わる順序を考えて話せる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「聞く人にそのときのことが伝わるように、何を先に話し、何を後で話しますか」 【めあて】二年生で経験した出来事を、聞く人が様子を思い浮かべられる順に紹介する。 〈予想される児童の反応〉 ・何をしたかを先に言うと話が分かりやすい。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「聞く人にそのときのことが伝わるように、何を先に話し、何を後で話しますか」 経験したことを出来事の順にメモへ並べ、相手に聞こえる声で話す。聞き手は出来事の順が分かったか、詳しく聞きたいことは何かを返す。その応答を基に話す順序や説明を調整し、もう一度話す。 〈予想される児童の反応〉 ・何をしたかを先に言うと話が分かりやすい。 ・途中でしたことを抜かすと最後の気持ちが伝わらない。 ・友達の質問で説明の足りない所に気付いた。	出来事のメモを実際の順に置き、聞き手がたどれたかを尋ねる。声を出すことが難しい児童は教師との練習や録音等を選ぶようにする。日々の活動も特別な行事も題材にできるようにする。 想定する難しさ：話したいことを思い付く順に言う。思い出の多さで競う。原稿を読むことだけに集中する。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 自分が行動したことや経験したことを基に、相手に伝わる順序を考えて話している。（話す順序のメモ・発表と聞き手の応答）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達の質問で説明の足りない所に気付いた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「聞く人にそのときのことが伝わるように、何を先に話し、何を後で話しますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理

由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、話したいことを思い付く順に言う。思い出の多さで競う。原稿を読むことだけに集中する。この場合は、出来事のメモを実際の順に置き、聞き手がたどれたかを尋ねる。声を出すことが難しい児童は教師との練習や録音等を選ぶようにする。日々の活動も特別な行事も題材にできるようにする。おおむね満足できる状況は、自分が行動したことや経験したことを基に、相手に伝わる順序を考えて話しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

二年生の思い出の発表メモ。出来事の順、特に伝えたい行動、そのときの思い、聞き手からの質問を残す。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時間・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（2年）「2年下巻」122行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1916261d-d388-44ac-af42-3aa7e13b6b11/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

